



再歩

～にぎわい再び～

しゅうしん
酒心

おくむら たしまとしこ
(左：奥村かおりさん、右：田嶋寿子さん)

行政区：テクノ仮設団地

唇すぎにお邪魔したところ、店舗にはまだ客の姿が。待たせてもらう間、会話に耳を傾けていると、まるで友人同士の会話のようでした。
にぎわいの残る中、お話を伺いました。

奥村さんと田嶋さんはもともとお店を構えてはいませんでした。益城町にはない新しいお店をつくりたいという気持ちの中、テナントを探していたところ、熊本地震が発生しました。直後、田嶋さんは益城町を離れ、実家の熊本市南区に一時的に移ります。ライフラインが徐々に復旧していったものの、子どもの心の傷は大きく、しば

らくは車中泊で過しました。

二人の生活が落ち着きを取り戻し、益城町で再度店探しを始めたところ、今度は地震の影響でなかなかテナントが見つかりませんでした。そこで商工会に相談を持ちかけたところ、テクノ笑店街7を紹介されました。

当初、奥村さんと田嶋さんの予定では夜の呑み処を計画していたものの、周辺に昼ご飯を食べられる場所がないことや、役場からの要望もあったため、昼夜の営業を始めました。

「最初お昼はちよつとどうかかな…と思っていました」と奥村さん。一か月程度で見切りをつける予定が、予想以上に客が来ることに。「来てくれるお客さんのためにも続けようと思いま

益城にないお店を

す」と二人は話します。

夜はさらに活気あふれる店に変身。益城にはない店酒心の真骨頂です。客のリクエストでメニューにない食事の提供、さらには客が材料を持ち込み、「今日は〇〇を作って」とリクエスト。驚くべきサービスです。「持ち込んだ食材を使って私たちが作る。それを今度はお客さんたちが分け合って食べる。そうすると今度はお客さん同士が仲良くなっていくんですよ。ここは自由（フリー）な店ですから」と二人は笑いながら話してくれました。

客は絶えません。

「常連さんの中には『ここに来ると元気が出る』『ここに来ないとね』と言ってくれるお客さんがいます。とてもうれしいですね」と田嶋さん。

「仮設団地の皆さんの中には一人だけ生活している人もいますし、これからの生活に不安を抱えている人もいます。そんな人たちがここで互いの境遇を話し合ったり、情報の共有をして日に日に元気になっていく姿を見て、私たちのお店も力になっていくのかな」とも語ってくれました。

「この場所は皆の家？店？それともたまり場なのか。皆さんが居心地の良い場所だと言ってくれています。お客さん同士がつながっていったら、今ではいろんなお客さん同士がいつの間

か知り合い・友達になっていますね。例えば今まで派遣で働いていたお客さんが、この店で知り合った方と意気投合して、派遣終了と同時に紹介してもらった仕事に就くなんてこともありました。ここは人の人生を変える場所かもしれないね」と奥村さんは言います。

店をするにあたって苦労していることを聞くと、二人とも「ない」ときっぱり。「とても楽しいです。このお店はお客さんに守られています。お客さんが新たにお客さんを連れてきて、今までの常連さんとながらって、さらに新たなお客さんを連れてきてくれます。中には『ここが良い』と町外から車で来て代行タクシーで帰られる方もいるんですよ。地震は大変だったけど、地震をきっかけにお店も開くことができまし、いろんな人と出会うことができました」と二人は答えてくれました。

「益城にはいっぱいお客さんがいるから、ぜひいつかは益城で（本設の）お店を開きたいです」と二人の思いは同じです。

近い将来、益城にはなかった「店を開き、町に新たなにぎわいを作り出すこととは、二人にとっては決して難しいことではないのかもしれない。

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277